

## 充実した9日間

吉田中学校

宮下 蒼爽

富士吉田市の姉妹都市である、コロラドスプリングス市での9日間の旅は、私の人生の中の大変重みのあるかけがえのないものになりました。出発日が近づくにつれ、楽しみでいっぱいの上に不安の雲が覆い被さってくるような感情もあったのですが、中高合わせて24名と引率の先生、市の職員の方々と空港までのバスに乗った時に、連帯感を感じ、背中を強く押された気持ちになりました。

デンバー空港に降り立った最初の感想は「涼しいな」でした。日本のような湿気がないアメリカは、気温は高くても過ごしやすい毎日でした。空港からバスでスプリングス市に入り、着いた所はすでにホストファミリーの方々が待っていて下さいました。私のホストファミリーが「ようこそ」と日本語で一所懸命書いてくださったであろうプラカードを掲げて迎え入れてくれました。今、振り返ると私はこの時とても緊張していましたが、それ以上に楽しみが大きくなっていました。

5泊もさせていただいたホストファミリー宅では沢山のことを体験しました。ホストファミリーは家の中でも外でもファミリー全員で一緒に楽しむことを大切にしている家族で私達2人も、そのファミリーの一員として温かく迎え入れてくれました。家の中にはボードゲーム専用のテーブルと100種類以上のボードゲームがありました。その中から選りすぐりのボードゲームを数種類やりました。ルールはもちろん英語で説明されるので集中して聞きました。そして皆で真剣に勝負をし、最後は「グッドゲーム！」とハイタッチをして終わりました。今思うと、ホストファミリーがボードゲームを最初にしてくれたのは英語にも、そしてそのファミリーにも私達を早く溶け込ませてくれるためだったのでしょうか。その思いやりに心が熱くなります。

アウトドアでは、ハイキングやラククロスをしたり、ジープやそのジープより少し小さいワイルドキャットという車で迫力のあるドライブに連れていってもらいました。ホストファーザーが運転する屋根を外したジープに乗っている時に、ひょうが降ってきて、慌てて後ろから付いて来てくれたホストマザーの車に避難した事も楽しい思い出です。その後、ファーザーはカップを着て濡れながら運転していました。その家族を守りながらのワイルドさがとても格好良かったです。夜は庭に出てコオロギの鳴き声を聞きました。それまでアメリカと日本の違いばかり感じていましたが、皆で耳を澄まして鳴き声に趣を感じる姿に共通点も感じて、より親近感が沸きました。

ホストファミリーとの別れの時は、とても寂しかったです。一緒に過ごしたのは5日間なのですが、それ以上に感じられる思い出を作ってくれました。考えてみると英語で不安になるということもありませんでした。間違えたり、開き直ることが全て自然に出来ました。これは自分の今までの日本の生活には無かった経験です。「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の

恥」ということわざがありますが、一時の恥さえも感じず、楽しめました。これからの人生を進む上で、とてもためになり、有難い経験だったと思います。ホストマザーの「あなたは日本の息子」という言葉を宝物にします。

最後の2日間は全員で合流して、コロラドの観光をしました。それぞれのホストファミリー宅のエピソードを聞くのも楽しかったです。このメンバーに出会えたことも自分の財産になりました。

この素晴らしい経験をさせてくれた姉妹都市派遣に関わって下さった全ての方々に深く感謝します。この経験を大切にこれからの人生に役立てていきたいと思います。